

# 入園・入学おめでとうございます



小学生全員にプレゼント!  
交通事故ゼロ1500日達成  
記念反射ストラップ



# 第12回埼玉B級グルメ王決定戦が開催されました

3月22日、草加市にて開催されました第12回埼玉B級グルメ王決定戦において、嵐山町観光協会が出展した嵐山辛モツ焼そばが県内40グルメの中で第5位に、同時開催のゆるキャラダンスコンテストにおいて、むさし嵐丸が出場したゆるキャラ19体の中で堂々準グランプリに輝きました。大勢の方に現地まで応援に駆けつけて頂き本当にありがとうございました。



## 新入生・新入児童数

菅谷小学校	69人
七郷小学校	16人
志賀小学校	36人
菅谷中学校	85人
玉ノ岡中学校	63人
嵐山幼稚園	43人

# 嵐山町いいとこスピーチコンテスト 金賞受賞者の紹介

1月24日に開催された、第1回嵐山町いいとこスピーチコンテストで金賞を受賞した、2つの作品を紹介しします。

金賞	議会議長賞	玉ノ岡中学校2年	森 凧沙	「人がつくる嵐山町」
金賞	教育長賞	菅谷中学校2年	金井美優	「歴史を彩る桜並木・武蔵国の嵐山」



嵐山町議会議長賞

「人がつくる嵐山町」

玉ノ岡中学校2年(勉) 森 凧沙

私が思う嵐山町のいいところは、地域の方が、防犯パトロールをしているところ。毎日、学校に行くとき、帰るときに、パトロールをしている方に会います。私達中学生は朝の交通量の多い時間に登校し、日が落ちるのも早く、暗い中、下校するときも多くあります。そんな危険なときに、パトロールをしていて、すくホッとしました。地域の安全のために、自主的に見回りをしていて、自分達も防犯への意識をもてるようになるので、より安全に、毎日を通りかかっているのだと思います。また、パトロールをしている方とすれ違うとき、必ず挨拶をしてくださいます。最初はあまり挨拶を返すことができませんでした。笑顔で挨拶ができるようになり、今は、パトロールの方に限らず、すれ違う人とも、挨拶を交わしています。このように、挨拶を通して地域の方との輪を広げられるところも、嵐山町のいいところだと思います。また、地域のつながりは、挨拶だけでなく、行事などでも見られます。私の住む古里地区では、昔から続くお祭りや、獅子舞があります。小学校のときは、そのお祭りで太鼓をたたき、地域を回ったこともあり、お祭りに参加したことで、知らない地域の方の優しさや、温かさを感じることができました。このような伝統的な行事を、町内至る所で見ることができるところも、嵐山町のよさだと思います。昔から受け継がれてきたものを、途中で終わらせることなく、次の代へつなげることは、簡単なことではないと思います。それには、地域のつながり、そして人と人との強いつながりが必要です。その強いつながりをつくるには、毎日のすれ違うときの挨拶だったり、毎年行われる地域の行事だったり、とても小さなことから生まれてくるのだと思います。地域の温かい輪であふれる嵐山町は、私にとって、自慢の町です。

普段、生活しているときは、嵐山町のいいところを考える機会はありませんが、このような考える機会を与えていただき、たくさんいいところを見つけたことができました。嵐山町の良さを改めて感じ、前以上にこの町に魅力を感じて、好きになりました。安心、安全で、地域、人と人がつながっている嵐山町が、私は大好きです。大好きなこの町を、もっと好きになれるように、自分から積極的に行動していきたいです。そして、自分の住む嵐山町に誇りを持ち、たくさんの魅力や良さがあふれるこの嵐山町を、ずっとずっと、大切にしていきたいです。



嵐山町教育委員会

「歴史を彩る桜並木・武蔵国の嵐山」

菅谷中学校2年(勉) 金井美優

私が産まれた時から今までを過ごしてきた町、嵐山。私が嵐山町の一番の魅力だと感じる所は、やはり豊かな自然です。緑も多く、また都幾川の土手に、全長二キロメートルにもわたって並ぶ約二百五十本の桜並木は、春になると満開に咲き乱れます。開花した桜や山里に降り積もる雪のように音もなく散ってゆく花びらは、淡いピンク色で辺り一帯を美しく彩ります。今年で三度目となる桜祭りでは、夜になるとほんのりに写しだされた夜桜と花火のコントラストが楽しめます。花火といえは夏の風物詩というイメージもありますが、早春の澄んだ空気の中で打ち上げられる花火も格別です。そしてこの桜祭りでは多くの出店がたち並び、沢山の人が訪れます。

また、武蔵嵐山渓谷は変化に富んだ地形と豊かな自然環境により、四季折々の多彩な表情で訪れる人々の心に感動を与えてくれます。さらに、嵐山渓谷は「嵐山町発祥地」でもあり、昭和三年に、日本で最初の林学博士である本多静六がこの嵐山渓谷を訪れた際、京都の嵐山の景色とよく似ているということで「武蔵国の嵐山」という意味で命名されたと言われています。この地名が後に採用され「嵐山町」となりました。

嵐山渓谷は岩畳をぬって流れる槻川の水が清らかで秋にはモミジをはじめとする紅葉が美しい場所です。沢山の植物、さまざまな動物もみられます。また、夏を中心に嵐山渓谷パーベキュー場や、学校橋河原は多くの人が訪れ、大変にぎわいます。学校橋河原では、数年前に岸を拡張する工事が行われ、それからパーベキューなどに来るレジャー人口が増えました。

施設では、雑木林の保護や、国蝶オオムラサキを育てているオオムラサキの森があり、その周辺を歩いてみると、ウグイスやセキレイ、狸など多くの動物と出会うことができます。身近な生き物とのふれあいを通じ心の安らぎを求めるとして、また生きた自然の美しさ、生命の尊さを体験する森として設置されています。

「福は内、鬼は内、悪魔外」がかげ声の鬼鎮神社。鬼鎮神社のように鬼をまつる神社は、日本で一つと大変珍しいです。鎌倉時代、この地方を治めた畠山重忠が、鬼門の方向に厄除けのために建立したと伝えられています。現在では受験生や選挙の候補者などが必勝祈願に訪れます。そんな鬼鎮神社も嵐山町の魅力の一つです。

嵐山町には、このように豊かで美しい自然、珍しい施設など、自慢のできる所が沢山あります。「風光明媚」この言葉が嵐山町に似合っていると思います。

私は、大好きなこの町で、これからも嵐山町の豊かな自然を大切に、自然と共に生きていきたいです。さらに、これからもっと、重ねた歴史の深さを学び、嵐山町の良さを発見し、この嵐山町のすてきな所を沢山の人が知ってほしいと思います。